

●シリーズ

防災気象豆知識 (1)

昨春に発生した強風にひいて

今月から2カ月に1回、防災に関する自然災害等の情報を掲載します。近い将来に発生するといわれている「南海トラフの巨大地震」や津波のほか、台風・集中豪雨・竜巻等の自然災害が発生するメカニズムなど、阿南市の地形にちなんだ情報を提供し、市民の皆さんに防災対策に関する予備知識を深めていただき、日常生活に役立てる内容にしたいと考えています。

第1回は、春先に発生しやすい「強風」について、徳島地方気象台防

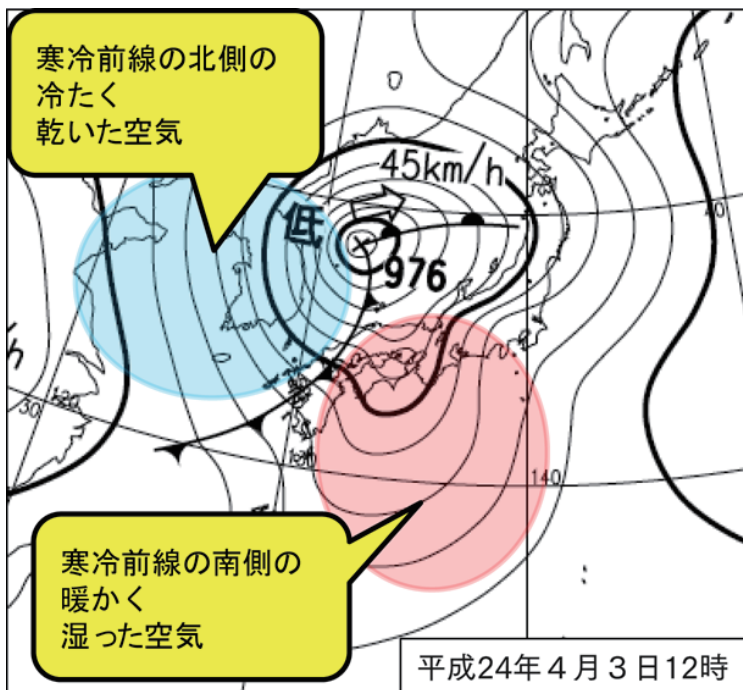


平成24年4月2日～3日にかけて、低気圧が日本海で急速に発達し、各地に風による災害をもたらしました。春季に日本海を北東進する低気圧が急発達することはたびたびありますが、今回の低気圧では2日午後9時から3日午後9時までの24時間に中心気圧が42ヘクトパスカルも低下するという、非常にまれな事例といえます。

低気圧からのびる寒冷前線が徳島県を3日昼過ぎに通過し、阿南市の蒲生田（阿南市に設置しているアメダス）では午後2時30分に南西の風で最大風速15・4メートル毎秒、午前11時51分に東の風で最大瞬間風速26・2メートル毎秒を観測しました。この強風により、阿南市那賀川町で非住家1棟が全壊、同市椿町では樹木が電線に倒れて接触したため、900世帯を超える停電が発生しました。（徳島県・四国電力調べ）

では、なぜこの低気圧は急速に発達したのでしょうか。それは、下の天気図のように寒冷前線の南側の暖かく湿った空気と寒冷前線の北側の冷たく乾いた空気がぶつかりあい、空気の温度差がとても大きくなったため、急激に発達したのです。

そのほかに春の強風の特徴として、5月の時期にも「メ



地上天気図

徳島地方気象台防災気象官 西谷幹生